

# 第14回全日本ホルスタイン共進会 北海道で開催

営業統括室 嶋田 和睦

北海道初開催となる乳牛のオリンピック、第14回全日本ホルスタイン共進会北海道大会（以下、全共。主催は日本ホルスタイン登録協会）が平成27年10月23日（金）、胆振管内安平町で開幕されました。



オープンセレモニー

10月26日（月）までの4日間、全国から厳しい予選を勝ち抜いた乳牛が最高位のグランドチャンピオンを目指し、体型のバランスや機能の優秀さなど、改良の成果を月齢別

に18部門に分かれて競い合います。全共は通常、ほぼ5年おきに開かれますが、今回は平成17年の第12回栃木大会（栃木県壬生町）以来10年ぶりの開催になります。平成12年に予定されていた第13回北海道大会（安平町）が口蹄疫で延期、東日本大震災で中止となったためです。2度にわたる災害を乗り越えた今大会には、全国42都道府県から過去最大規模の380頭（出品目録による。ホルスタイン349頭、ジャージー31頭。北海道68頭、都府県312頭）が参加しました。口蹄疫の教訓を踏まえ、新千歳空港では出入国エリアなどで靴底消毒への協力を促すポスターの掲示、口蹄疫発生国からの直行便等の到着に合わせアナウンスを行う活動、会場入り口には「防疫除菌対策施設」を設置し、来場者はこの中で、靴底や手指の消毒はもちろん、噴霧状の消毒液を全身に浴びなければ入場できないこと、牛舎エリアにはID認証が必要な上、過去1週間以内に口蹄疫の非清浄国に滞在していた人の立ち入りを禁じるなどの厳格な防疫対策が講じられていました。

また、札幌では開催前に地下鉄車両を使つての車内中吊

り広告、車両ボディーのステッカーなどの広告ジャック、全共開催に合わせ24日と25日で消費者向けイベント「北海道酪農パビリオン」が開かれ、24日（土）は道庁赤れんが前広場ではオープニングセレモニー、牛を引く技術を競う酪農学園大学によるリードマンコンテストのデモンストレーション、牛乳・乳製品を利用した料理や飲料を販売する出店が行われました。庁舎内では北海道酪農の歴史展示、地下歩行空間では模型の牛を使った搾乳体験や乳牛のパパークラフト、北3条広場アカブラでは牧草ロールへのお絵かきコーナーや最新鋭の酪農機器が展示されました。本会場以外でも各種イベントが開催され、酪農会の大イベントである全共を盛り上げるとともに、北海道酪農と牛乳・乳製品の魅力がアピールされました。

本会場である共進会場には協賛された市町村・農協・企業・団体等92社が出展する酪農資材機器展や技術交流会が開催されました。過重な労働負担や深刻な人手不足の解消に向けて、国内で販売されている搾乳ロボット4機種が一堂に会し、同時に比較できる貴重な機会とあって大勢の方が熱心に見入っているのが印象的でした。

弊社では「今こそ自給飼料を増産しましょう！」をテーマに寒冷地・温暖地向けの牧草・飼料作物種子（チモシー、イタリアンライグラス、ペレニアルライグラス、アルファルファ、とうもろこし）、乳酸菌製剤（サイレージ用資材サイマスター等）、代用乳の展示と「北海道道東の広大な草地資源を（最大限）有効活用する草地型酪農の基盤を確立し、自給飼料を中心とした低コスト経営の実現とその実践内容を積極的に地域へ普及していく」ことを事業コンセプトとし、平成25年11月（平成27年4月搾乳開始）に標茶町農業協同組合と標茶町と共に設立しました「株式会社TACS（たつくす）しべちゃ（農業生産法人）」のコーナーを設け、広くお客様のお話を聞かせていただきました。

## 第14回全日本ホルスタイン共進会北海道大会結果

ホルスタイン種	最高位賞	レデスマナー MB セレブリテイ	十勝管内更別村	天野 洋一
	名譽賞	TLM アジー ビスタ オア ET	十勝管内広尾町	佐藤 孝一
DH チャンス メイク ET		北見市	山内 誠	
クリアデール チュンキー マーシヤル アイオン		稚内市	白崎 絃希	
TMF ナダイヤル アット アンナ エコー		十勝管内清水町	(有) 田中牧場	
エッセンス ゴールド アポロ エル ダーハム ET		宗谷管内豊富町	栗城 一貴	
KWF サンチエリア ダーハム ビュー		釧路市	(株) 敬和ファーム	
ジャージー種	名譽賞	レデスマナー MB セレブリテイ	十勝管内更別村	天野 洋一
		クローバー クリストファー ロビン	十勝管内大樹町	(株) 松本牧場
		アサナベ IT フォング プリトニー	岡山県	筒井 大悟



牧草・飼料作物種子コーナー



サイレージ用資材 (サイマスター) コーナー



代用乳コーナー



TACSしべちゃコーナー



比較審査の様子①



比較審査の様子②



比較審査の様子③

全国の酪農家様と関係者が結束を強めると同時に、酪農の将来に向け、夢を育むきっかけとなる大会であり、10年分の乳牛改良の成果が見られた大会でありました。次回は5年後の平成32年秋、宮崎県都城市で九州・沖縄ブロック大会開催となります。

最後になりますが、弊社は牧草・飼料作物の種子開発から、配合飼料、飼養管理技術、微生物資材の提供を通じ「環境保全型農業」を提案させていただき、北海道の底力を支える酪農家様へ総合的サポートさせていただきますので、今後ともよろしくお願いいたします。

# 第67回日本酪農研究会 福岡市にて開催

営業統括室 小坂 康

日本酪農青年研究連盟（酪青研：山本隆委員長）主催の第67回日本酪農研究会が、農林水産省、福岡県をはじめとする54関係団体の後援・協賛のもと、11月17～19日の3日間、ヒルトン福岡シーホークにて、全国から320余名の参加者を集めて開催されました。

本研究会の開催目的は、日頃の経営成果と実践活動の発表に併せ、分析検討・知識技術の交流を通し、山積する諸問題の解決を図りながら、国際競争に勝ち残るわが国酪農産業の未来を切り拓き、



山本委員長の開会挨拶

発展に寄与することあります。

主催者挨拶された山本委員長は、10年ぶりの九州福岡の地での開催に際し「TPPの大筋合意がなされ、我が国酪農が国際競争の荒波に踏み出すこの時期、福岡にて開催される今大会はまさに国際化に立ち向かう我々酪農家にとって象徴的な意味を持つ大会になる。我々酪青研盟友の結束をさらに強め、酪農家同士の絆を確かめ合い、新たな成長につながることを祈念する。」と述べました。

当社グループを代表して挨拶した西尾代表取締役社長は、「TPP交渉の大筋合意がなされ、日本の酪農乳業界は新たなステージを迎える。今後とも酪青研会員の皆様をはじめとした全国の酪農家の方々と手を携えて、企業理念の一つである「酪農生産への貢献」の実現に向けて、グループ各社とともに取組みを進めたい。」と述べました。研究会で